

「本部」暴力集団の破壊策動 をはねのけてかちとる。

79年度4月期 昇給交渉

5・19、20の総決起で、新たな動労千葉破壊策動を粉碎せよ！

一九七九年四月期昇給にかかわる団体交渉が五月一日一三時、局団交室において開始された。一八日段階では当局提案を受けて動労千葉交渉部および各支部長からの若干の質問をもって終り、最終的結論は次回以降の交渉の中で出すこととして整理された。「本部」暴力集団がわれわれに対し、「当局からも公労委からも相手にされない集団」という歪曲したデマ宣伝を繰り返して、一方では、権力・当局や国労に泣きつき、七九春闘や統一地方選まで放棄して行った動労千葉の組織破壊攻撃を、強固な団結力・組織力ではね返しこの団体交渉をかちとつたことの成果は画期的である。(当局の提案要旨は別掲の通りである)

破産した「本部交渉団」

千葉管内にひとりの組合員も持たない「動労本部」は、労働法上何の根拠もない「幻の交渉団」をデッチ上げ、動労千葉の引き上げた後、権力・当局に哀願し守られながら「交渉」をやったという形象をとりつけるためにのみ千葉局内に入り込んだが、当然のごとく何の成果もあげられないまま、早々に退散した。

動労千葉は交渉後、支部代表者も含めた総括会議を行い、今後も自らの力でかちとつた成果をさらに拡大してゆくために奮闘することを確認した。この5・18団交は、「本部」暴力集団がいかにかに当局に媚を売り「55・10大合理化」第二の貨物安定宣言で協力します」とへつらつたとしても、それは動労千葉との団交なしには首都圏の国電のスムーズな運行をはじめとする日常的業務が全くまわらないという現実の前には、所詮「ダダツ子のグズリ泣き」でしかないことを示している。

「本部」暴力集団は、この「幻の交渉団」が全く正義性も合理性もないものであることを痛いほど感じているが故に、そして、この「幻の交渉団」の目的が動労千葉の団交破壊以外の何ものでもないが故に、「交渉委員」だけで千葉の地へ入ることができず、「指令」をもってかき集めた約六〇〇名の組合員を木更津、館山、勝浦の三支部を除く各支部と各乗継ぎ駅に送り込み、何とか動労千葉の団交を破壊しようという画策したが軽く一蹴され、なす術もないありさまであった。

生産点の闘いを積み上げ さらに前進しよう！

われわれは労働運動の原則に踏まえた、地道な職場生産点の闘いをじっくりと積み上げてきた。この間船橋事故闘争を中心とする反合・運転保安

闘争や三里塚・ジェット闘争で創りあげてきた動労千葉の組織力と闘いの成果が、よこしまなセクト的利害に立脚した無法な暴力で破壊されるはずもないのだということを暴力集団に思い知らせる必要がある。このことは、日本階級闘争、とりわけ労働運動にとってその右傾化の流れを止め、激動の八〇年代を闘い抜ける真の運動を創りあげてゆくために絶対的に必要な歴史的過程なのである。

その任務がわが双肩にかけられているという歴史の選択を喜びをもって受けとめ、一四〇〇名の団結をさらに強固にうち固めて前進してゆこうではないか。

当局提案要旨

- 昇給実施箇所
昭和五四年4月1日現在の勤務箇所において実施する。
- 昇給有資格者及び所要額
7,802人 29,389,200円
- 抜てき及び是正に使用する資金
(1) 勤務成績が特に優秀な者
前項所要額の2% 587,800円
(2) 他との均衡上特に考慮すべき者
前項所要額の1.5% 440,800円
- 昇給欠格条項該当者数一省略一

**5・20三里塚現地総決起集会へ
圧倒的結集をかちとろう！**

日時 5月20日(日)12時
場所 茨山町岩山
※作業服持参。10時30分成田運転区集合同期。

農を考之庵をめぐり、中港阻止一周年・二期工事阻止。